



教育改革の提言

明治維新から終戦まで77年
終戦から東北関東大震災まで66年
震災からの復興と教育の改革を

君島 浩、フリーのシニア教育デザイナー
〈本資料はフリーの立場での私見です〉
月～木 ISO・医療業務支援部、
筑波大学附属病院
富士通33年間、海上自衛隊5年間

2011.3.19

教育改革の提言

1



「若い職員が次々と津波にのまれて行った。 まさに地獄絵図だった」

宮城県南三陸町の佐藤仁町長(59)は、町庁舎に隣接する防災対策庁舎の屋上に避難し、その庁舎が濁流にのみ込まれた時の様子を振り返った。

発生当時約40人が庁舎内におり、このうち約30人が屋上に避難した。ところが、津波は3階屋上をも包み込んだ。町長によると津波の高さは約13メートル。屋上の金網に必死ですがりついた町職員も、金網と一緒に次々とのみこまれた。

妻を残した家が押しつぶされるのを目の当たりにした町幹部が屋上で男泣きに泣く姿を見て、誰もが胸を締め付けられた。

13日朝には、がれきと化した街並みから水が引いた。今はもう散乱した、笑顔で映っている家族写真を拾い集める人の姿もあった。

陣頭指揮を執る佐藤町長は「生死は紙一重。生き残った私たちは、つらくてもしっかり生きなければならない」と声を震わせた。

(読売新聞)

2011.3.19

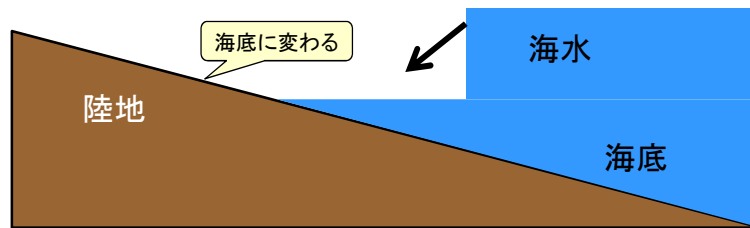
教育改革の提言

2



地震物理学よりも地震生活学

- 津波はサインカーブではなく海水面上昇
- 押し寄せるのではなく、河のように流下する



2011.3.19

教育改革の提言

3



死者の大部分は窒息死

- 倒壊した家屋・家具による身体圧迫
 - 呼吸困難で窒息して、ほぼ即死
- 津波によって溺れる
 - 泳ぎに達者な人でも奔流では無理
 - 水を飲んで窒息して、ほぼ即死
- 老人・病人の誤嚥も窒息死
- 生活を守る住居、水、食物が死に関係する
- 1985年以降の建物は原則として倒壊しない
- 建物倒壊は経済問題・貧困問題である

2011.3.19

教育改革の提言

4

テレビや東電や専門家の説明は
結果： 原子力技術である壁の内側

非常用炉心冷却装置のしくみ

原因： 原子力技術ではない一般的な部分
東北電力だけはこれらも安全管理の対象

2011.3.19 教育改革の提言 5

1. 学部の大学院型教育の抑制

2011.3.19 教育改革の提言 6



放映されない日米連合艦隊



合わせて60隻以上
ほかに海上保安庁も



2011.3.19

教育改革の提言

7



史実研究はどこまでが限度か

- 史実(history)とは出来事または記録です。新聞も同じです。
- 物語(story)は一連の出来事の文章です。
- 小説は、史実ではない主張、構造的物語、創作などです。

新田次郎の小説「八甲田山: 死の彷徨」は小説の典型です。

- 主張的です。本人が過去に体験した理不尽なことが背景です。
- 構造的で、進行と人物のマトリックスを綿密に設計しました。
- 創作です。見事な組織の史実を、乱れた組織に変えました。
- 現実には乱れた組織が多いので、共感され評判になりました。
- 多い方の史実に似ていて、本当に価値があるかは疑問です。
- 創作小説とは、超絶的な設計やレトリックに価値があるのか？

2011.3.19

教育改革の提言

8



再研究と学部への大学院型教育の抑制を

- 歴史研究者は調査困難な出来事を調べて記録する人です。
- 歴史編纂家は記録のWhenの観点で歴史集を作る人です。
- 記録集の中の6W2Hによって、空間的關係、因果關係、人間關係、量的變化も分かります。それはジャンル研究に入ります。
- 歴史学者以外の研究者は、特定のジャンル(分野)を調べて、過去に発表されなかった一般則を発明・発見する人です。
- 学士は一般則の最新版を系統的に修得する学位です。
- 研究者をめざす学生にも、整理された一般則は不可欠です。

2011.3.19

教育改革の提言

9



創造的でないほど大学院型教育

- 歴史学者ではないのに史実や歴史集をそのまま学部生へ教育する学者が散見されます。
- 一般則の教材や講義ノートを準備しない学者が散見されます。研究論文を教材にしたり、卒業研究以外の研究活動、体験活動、論文調査に単位を与えたりします。
- 研究の中には、一般則の成果のない史実研究論文や、統計を示して一般則らしくする研究論文が散見されます。つまり、一般則を発見していない再研究や実践報告があります。
- 問題が少ない分野は、自然科学、建築学、数学、体育学です。また、文学以外の芸術です。
- 創造的な分野ほど学部への大学院型教育には抑制的です。

2011.3.19

教育改革の提言

10



2. 教育学部の教育改革

2011.3.19

教育改革の提言

11



教育学部の後進性

- 歴史学者ではないのに史実や歴史集をそのまま学部生へ教育する学者が、教育学部では散見ではなく普通に見られます。
- また、一般則の教材や講義ノートを準備しない学者が、教育学部には普通にいます。研究論文を教材にしたり、卒業研究以外の研究活動、体験活動、論文調査に単位を与えたりします。
- 問題が少ない教育学者は、理科教育、数学教育、体育、そして文学以外の美術教育、音楽教育の学者です。つまり主題分野の創造的な文化が、教育学部にも反映しているのです。
- 教育基礎科目も、主題分野の文化を反映しています。心理学は創造的で一般則を教育します。
- ただし、心理は生徒の理論であり、教師の技法ではありません。
- 教育原理は後進的です。一般則なしに古い史実を教育します。
- 教職入門も後進的です。一般則なしに今の史実を教育します。

2011.3.19

教育改革の提言

12



子供の教育の支えと苦勞

- 子供の学校の教師を支えているのは、主題分野の標準指導要領と教科書です。
- 心理学も子供の学校教育を支えています。
- 標準指導要領や教科書は、教育学部の産物とはいえません。委員会委員や特定の学者の成果物です。
- 指導要領、教科書、主題分野があいまいな学校科目は、教師が苦勞しています。総合的学習の時間がその典型です。
- 保育士や幼稚園教師も同様の状況で苦勞しています。成人である自分が何をするかの一一般則をほとんど習っていないのです。
- 教育学部には指導要領や教科書を作る一般則はありません。
- 教育学部には課程(科目編成)を作る一般則はありません。
- 教育学部は教育学部自身の教育をする方法を持ちません。

2011.3.19

教育改革の提言

13



世界中で後進どころか後退している

M.Herring, et al., "At the Core of the Problem — Reforming Teacher Preparation in Oklahoma", Oklahoma Association of Scholars, 2001.

(この文献を紹介しているウェブ記事は私の以外に、日本にはない。)

- 米国は教育の内容や方法をいろいろ変えてきました。私たちはそれらを全部合わせたより大切な基本に鈍かったのです。それは教師です。
- 教師のほとんどは修士になりました。したがって、教員養成の問題は、6年制にする問題ではなく、4年制の知識の量と質の問題なのです。
- 米国の教育学生の弱点は、教育学者の弱点の影響を受けています。
- 米国の英語(国語)教師は、しばしばセンテンス図解法を知りません。
- 医学部卒の新米医師は、ヒポクラテスよりもマシです。
教育学部卒の新米教師よりは、ソクラテスの方がはるかにマシです。
- 上の皮肉は30年前のもですが、現在ももっとひどくなっています。
- 教育学部の学術性の順位は、法学部、更に経営学部よりも下です。

2011.3.19

教育改革の提言

14



オクラホマ学識者協会の勧告

- 勧告1: 実践科目の時間を大幅に減らす。
- 勧告2: 学術的でない科目を免許後の要求へ移す。
- 勧告3: 卒後の教師へ定期的に試験する。州庁以外の試験で。
- 勧告4: 主題科目知識の充実を定期的に要請する。
(注: 卒後の教師へまともな主題科目の更新教育をする。)
- 勧告5: もっと厳格で意味のある教員免許を探す。
(注: 教員免許試験は薄い上に更に薄くなる。)
- 勧告6: 徹底的に学位インフレを調査する。

2011.3.19

教育改革の提言

15



学識者協会の批判(続き)

- 教育学部の教育科目は内容が薄いです。
- 実技を改善するわけでもなく、科目主題の到達度を満足するわけでもない実践科目に焦点を置き過ぎています。
- これらの科目は相当な授業時間を費やして、本筋からはずれた少量の成果しか与えません。
- 教育学科目の科目記述は、歴史ドラマや現代ドラマのような内容です。
- 物語的なシラバスは、教育学として浅いという疑問が浮かびます。法学部で歴史裁判ドラマや現代裁判ドラマを見せるようなものです。
- 異なる科目シラバスに同じような呪文が重複して出てきます。目標が何であって、どうしたら到達したと判定できるのか分かりません。
- 教育学部の品質管理がいい加減で、学位インフレが横行しています。
- 学位インフレの横行は、同じ科目に対する他学部との比較でも明らか。
- 卒業生は、教育学部教育が高度だとは評価していません。

2011.3.19

教育改革の提言

16



私による批評の再開

- 教育学部は2年制の史実研究専門学校のような内容です。
- 教育改革の対立は、過去と現代の史実派同士の対立です。どちらが勝っても、一般則を整理・蓄積する進化は生まれません。
- 過去史実派が東京帝国大学や米国の教養大学の系統であり、現代史実派が師範学校や京都帝国大学の哲学の系統だと考えるのは面白いです。
- 面白いのですが、改革すべき将来イメージは出てきません。
- 教職基礎科目を履修した他学部生の授業評価は3「つ」です。
「つまらない」「つらくない」「つかえない」
- 学部教育が最も上手なのは理学者です。創造的であり、主題が一般則であり、教育自身にも一般則を見いだすからでしょう。
- 理学者が教育学部のシラバスを見たら感心するでしょう。
「彼ら彼女らはどうしてこのような教育ができるのだろうか」

2011.3.19

教育改革の提言

17



教育学科目の科目記述

目的

教育の理念の成り立ちを**近代思想史**の文脈において把握することをテーマとする。そのような歴史的知見を単なる知識にとどめず、**現在の教育言説や制度改革**にまで連なる一つの思想の流れの中で解釈できるところまで、思想的な訓練を深めたい。また小発表を通して、文献や資料に沿って、自らの解釈を提示するというスキルを磨いていくことも到達目標としたい。

概要

教育の理念および思想史を、現在の私たちの問題として考えるために、教育制度の改革を支える人間把握の大きな転換として順序立てて捉えていく。授業は、主に講義・テキスト読解・映像分析をメインとするが、受講者の小発表を織り交ぜることで、活発に自由な議論が展開できるように工夫する。

2011.3.19

教育改革の提言

18



私による批評の最後

- 法学者は教育学に無関心です。関心を持ったとしても、教育学の一般則は見つかりません。存在しないからです。
- 医学者は法学や教育学と同じ人間相手の資格職ですが、教育学に関心があります。見つけたのは別の進化した教育学です。
- 医学者の教育学導入(FD)の水準はまだ高いとはいえません。
- 多くの教育学者は外部の批判や勧告を理解できないでしょう。
- 教育学には自閉的な人が集まりやすいからです。
- 教育学改革には、かすかな光があります。理科教育学者や体育学者です。彼ら彼女らは、進歩に直面しているし、外部のことを理解できるからです。
- 他人に関心のある学者が、他人に関心のない学者を嫌悪しても解決には至りません。そういうものだと思ってつきあいましょう。
- 教育学部は4年制のまま、法学部並みの水準へ改革できます。

2011.3.19

教育改革の提言

19



3. 大学職員教育の改革

2011.3.19

教育改革の提言

20



教員教育FDの廃止を

- 教員教育FDは、エビデンスが薄弱です。
- 学校教育法は、職員教育の責任者を学長へ委譲していません。委譲しないので、職員教育の責任者は文部科学大臣のです。
- 大学のFDが設置基準を満たしていない時は、責任は大学ではなく文科大臣に課されてしまうという矛盾が起きます。
- 設置基準からFDを削除して、学校教育法で任免権者(学長)へ職員教育の計画と監督の責任を委譲すべきです。
- 法律上の計画とは、内規を制定するという意味です。
- 法律上の監督とは、臨機の監督と年度末の実施報告承認です。
- 教員は就業規則等では職員の種類として規定されています。
- 職員教育規則は就業規則と同じように、全職種の単一の規則にすべきです。
- 職級明細書をもとにした職員教育課程にすべきです。

2011.3.19

教育改革の提言

21



設置基準のFD条文


「大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」

- 職員教育SDの目的は授業の改善ではありません。
- 職員の職業能力の向上であるべきです。
- 授業改善が目的なら学生の授業評価もFDになってしまいます。
- 授業評価は教育業務の一部であり、FDとは別のものです。
- 「組織的な」は冗長です。
- 学長を職員教育責任者にすれば、組織的に決まっています。
- 「組織的な」という言葉は、教員同士の啓発に曲解しがちです。
- 職員の工夫は職員教育とは別物です。

2011.3.19

教育改革の提言

22



教育学部の教育方法学科目の科目記述

長過ぎる

目的 学習指導要領の**今次改訂**により、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、習得した知識・技能の活用(思考・判断・表現等)、学習意欲の喚起が重要視され、各教科及び総合的な学習における**授業改善が求められている**。本授業では、授業構成要素である目標、内容、指導方法・学習方法、指導組織・形態、学習組織・形態、学習環境・メディア、学習評価等々について具体的な事例に基づいて理解を深めると共に、その工夫・改善のあり方について検討する。また、具体的な授業の分析や協議を通して、授業の計画・実施・評価のあり方についても体験的に理解する。「**授業実践力**」の育成を目指す。

概要 具体的な授業記録や関連資料の分析及びそれに基づく協議を通して、授業構成要素及び授業の計画・実施・評価の方法について体験的に学ぶ。

キーワード 授業の設計・実施・評価、教育目標と学習評価、学習環境とメディア、授業の設計と分析、ワークショップ

注意 具体的な**授業事例**や関連資料についての各自の**意見・感想**及びそれに基づく協議を重視する。また、授業分析等ではワークショップ型の活動を多く取り入れる。受講生の活発な発言や協議を期待する。

目標

1. ①授業を構成している要素について具体的に理解する。
2. ②授業の設計・実施・評価の過程について理解する。
3. ③授業についての分析方法や協議の仕方について理解する。

計画


…

評価 授業への出席、学習態度、授業中の簡易レポートとテストにより総合的に評価する。

教科書 テキスト:文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校総合的な学習の時間解説書』(今年度)に発行されるもの)

参考文献 村川雅弘・酒井達哉編『総合的な学習 充実化戦略のすべて』日本文教出版

2011.3.19
教育改革の提言
23



FDなしでも、科目記述は改善できる。 筑波大学国際総合学類へ私が手引書を書いた。

12ページの手引で
合理化、標準化した
模範的な科目記述。
法規の第1条も同じ。

BC11 021、R11 4001 **アジア政治(Politics in Asia)**
 教員(Instructor) 首藤 もと子 (Motoko SHUTO)
 単位(Credit) 2、標準年次(Year) 2~4、学期(Trimester) 1
 曜日(Day) 月曜、時限(Period) 1・2、教室(Room) 1010R404

科目記述(Course Description)
 アジアの繁栄と安全を**目的として**、東南アジアおよび南アジアの諸国の政治制度を、講義および議論によって比較学習します。特に政党と選挙制度、地方分権の現状と課題、およびガバナンス機構の課題を学びます。

到達目標(Objective)

1. アジア諸国の政治を比較するのに用いる普遍的な視点を説明できる。
2. 国家の形成と軍の機能の基本概念を、アジアの事例について説明できる。
3. アジア諸国の多様なガバナンス機構の特徴を説明できる。
4. アジア諸国の外交と市民社会との関係について、現状と課題を概説できる。

成績評価(Grading)
 出席20%、質問等の授業中の参画度20%、課題提出物20%、期末レポート40%で評価する。

教材(Material)
 教科書: 片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門』、有斐閣ブックス、2007。

履修要件(Prerequisite) 前提科目はない。授業中は積極的に質疑応答し、意見を述べること。

教育会社方式の簡潔な書式

2011.3.19
教育改革の提言
24



教育学部の教師論科目の科目記述

概要 現代の子どもたちは社会的・家庭的要因からくる様々な問題を抱えていること、また、そこから派生する学校現場での問題点や課題も多々あること、それでも尚かつ、教職に勝る職業はなしと考える多数の教師の声等から学校現場の実情を把握した上で、教職の意義及び教員の役割・職務内容を学生自ら主体的に学べるようにする。また、先人の崇高なる教師論を学ぶ中で、教師としての使命感と真の教育愛等について反芻しながら、社会の養成である豊かな人間性と確かな指導力のある教師とは、と学生自身が「理想とする教師像」を描いけるようにする。さらに、本講座「教師論」を学んだことにより、自らの適性等を考えるなど、学生自身が将来に対する方向性・展望がもてるよう進路選択の機会を提供する教職科目のひとつとする。

目標

1. 子どもに慕われ、親に尊敬され、同僚に愛され、校長に信じられる教師を育成し、新たな時代にふさわしい教師として学校教育が担えるよう、確固たる教師観と実践に繋がる資質・能力を養成することを目標とする。



4. 官公庁教育の改革



官公庁教育の現状の評価

- よい方です。一部の優良企業や自衛隊は上ですが。
- 研修体系が複雑過ぎるのが一番の問題点です。
- カタカナ課目を中心に、2割は必要ありません。
- 外部講師や外部業者や研修所はやめるべきです。
- 研修所規程というのは位置づけがおかしいです。
- 法規の第一条の書き方がいい加減です。
- 課目の趣旨の書き方がばらばらです。
- 改善できる課目がいくつかあります。

2011.3.19

教育改革の提言

27



研修体系(課程体系)を簡潔に。 カタカナ課目を中心に、2割は必要ない。

- 職種・階層ごとの職級明細書を教育ニーズとする
- 職種別・階層別課程を出発点とする。
- 現状の階層別課程は、職種別・階層別課程の変形とみなす。
- 職級明細書に対応しないカタカナ課目は廃止する。
- 職級明細書に対応しそうな職級の課目へ吸収する。
- 人数の少ない課程も職種別・階層別課程の一種とみなす。
- 各職員は職責に関わらず職級明細書どおりの課程を受ける。
部下がいなくても部下指導課目を受けるなど。
複雑系を扱うのに、潔癖すぎではいけない。
職員中心に考えるのは経営とはいえない
- ヒト、モノ、カネ、ノウハウの課目の品揃えを見直す
 - 物資管理課目の必要性。情報管理課目というまとめ方。...

2011.3.19

教育改革の提言

28



やめるべき教育の例

- ワークショップ(初心者グループ体験演習)
 - 一人前社員の個人ごとの実務改善の集合批評にすべき
- キャリアデザイン(気づきと自分探し)
 - 経歴細則と人事統計報告を理解すれば十分
 - 学生は就職先統計情報を理解すれば十分
- メンタルヘルス(自殺・ストレス削減対人技能)
 - 精神症教育と障害者雇用と休職対策を中心に直すべき
 - 健常者と見分けにくい高度自閉症は約250人に一人いる
- 性格類型別対処法
 - キャッテル、人事院面接基準、ユング/MBTIなどの、性格因子検査を。客観的検査以外の教育は信頼性に問題。

2011.3.19

教育改革の提言

29



位置づけを見直すべき教育

- コーチング単独課目
 - 職級明細書に該当項目があれば、職種作業に吸収する
 - スポーツコーチは教育よりも日記や会話録を大事にする
- 総合的・体験的教育
 - 講義1時間:演習2時間というペア型の位置づけが大切
 - 何を習ったのか、何を教えたのか、目標や到達が不明
 - 講義0時間:演習3時間なら、劇的に効果が悪い

2011.3.19

教育改革の提言

30



外部講師や外部業者や研修所の廃止

- 研修所は実行部隊のネーミングである研修部に戻す
- 実行部隊なら専門的業務は内部職員でまかなうはず
- 外部はどうしても必然性のある1割程度に
- 職員教育は、大学院を超える高度専門教育であるという気概を
- 大学院の学者といえども講師ができるわけではない
- 内部を知らない外部業者に講師ができるわけがない
- 教育コンサルよりも人事院直伝の教育制度の方がマシである
- その職務を経験した専門家職員に講師ができないわけがない

2011.3.19

教育改革の提言

31



研修所規程を職員教育訓令へ

- 目的は「職員の職業能力向上」と明記すべき
- 上位法規の研修の「計画」とは教育課程体系です
- 課程体系は知事責任だから、訓令へ大筋を記載すべきです
- 正規課程のほかに、部門長の裁量による講習も規定する
- 課程は付表だけでなく、本文にも一条ずつで叙述する
- 管理職は部門管理ではなく、インストラクショナルデザインの工程に責任を持つ。
- 課目編成は研修部長が策定する。
- 指導項目・指導要領は教務係長又は専門員が設計する。
- 教材は研修部長が開発する。(予算の高いものがあるので)
- 知事による教育実施報告の評価を規定する。
- 現状の教育計画は年度教育日程に直す。
- 付表で、各課程の主な課目と実施者(主に研修部)を規定する

2011.3.19

教育改革の提言

32



政策形成・立法技術・政策立案の改善

- 教材以前に「規則類規程」を制定すべき
- 規則類規程で、規則類策定作業の工程と生産物を明確にする
- 政策形成とは規則類を生産物とする作業である
- 参考文献: Guide to Making Federal Acts and Regulations、カナダ政府
- 規則類の典型は構造体である。分野ごとに定型がある。
- 課目の講師は規則類規程の担当部門が担う
- 事務は政策形成(経営企画)という意味である
- 承認種類は、独任制、会議制、稟議制を列挙
- 説明責任は誤字。規則類や実施報告書を根拠に説明すること
- 事務(起案)担当にはいくつかの種類を列挙
 - 本人、企画室、行政職員、議会職員、議員秘書、有識者会議・・・
- 住民参加の政策ワークショップの排除を
本当のワークショップは専門家個人作業の集合批評

2011.3.19

教育改革の提言

33



法規の第一条の書き方を適切に。 課目の趣旨の書き方を統一すべき。

- × ~を定める。 (目的句が必要)
- × ~必要な事項を定める。 (具体化が必要)
- × ~を定めることを目的とする。(趣旨と目的の混同)
- × (第2条以降のような詳しすぎる条文)
- △ ~を定め、~を目的とする。(逆の方が現代的)

○アジアの繁栄と安全を**目的として**、東南アジアおよび南アジアの諸国の政治制度を、講義および議論によって比較学習します。(法規も課目記述も構文は同じ)

2011.3.19

教育改革の提言

34



OJT指導者課目

- 部下がいなくても受講させるべき
- OJT計画というのはOJTを規則に載せるという意味
- OJT指導者課目を作ったら計画したこと。それで十分
- OJTの準備は不要である。労務管理をするだけ。
- 職級明細書や手順書を暗記する程度の準備でよい
- OJT指導者指名は不要。労務管理の上司が指導者
- OJTに向くタスクは極めて少ない。OffJTが主役。
- 四角い商品箱を包装するのはいきなり本番は不可能
- 切り分けするためにインストラクショナルデザイン
- 職場でのOffJTは、職場の講習という位置づけに

2011.3.19

教育改革の提言

35



人事制度の非改革を

- 提言1: 成果主義、能力主義などは排除し、職階制を維持する。
- 提言2: 年功給、成績給、成果給は給与制度にまかせる。
- 提言3: 経歴細則を強化して、昇進・異動の不平・不満を解決する。
- 提言4: 長期的な経歴管理を重視し、人事評価は現場に委ねる。
- 提言5: 個人の成績ギャップより、組織の教育ギャップを点検する。
- 提言6: 人事制度教育を強化して、素人改革の前に結果分析を。
- 提言7: 人事統計報告のために最新の人事管理ソフトを活用する。
- 提言8: 目標管理は能率管理の配下にして距離を置きなさい。

- 制度を直す前に、人事の知識・情報をインプットしなさい。

2011.3.19

教育改革の提言

36



5. 企業内教育の改革

2011.3.19

教育改革の提言

37



企業内教育の問題点

- 前述の分野の問題点と同様

- 多くの企業は官庁教育よりもエビデンスが乏しい
- 社員教育規則がないか、又は的外れ
- 職階制や職級明細書に基づかない課程・課目
- 体系的成績の弱い人事課員・教育課員
- 本社、教育子会社、教育業者間のムダとモレ
- 後進的大学院型教育のような協会や雑誌の鵜呑み
- 自閉的講師。似非科学商売。マルチ的講師育成商法
- OJTの誤解を正す意見の間違い
- 人事評価改革・目標管理制度の混乱

2011.3.19

教育改革の提言

38



社員教育規則の制定・改善 教育子会社等の関係の整理

- 社員教育規則は、官庁の場合と同様。課程体系を中心にする。
- 職級・階層、職級明細書は、本社人事課が仕切る
- 子会社は教育部に戻して、課目編成以下を仕切る
- 講師は社員を原則とする。
- 職級明細書に該当しないことは教育業者に発注しない

- 教育資産(講座記述・指導要領)を社内に蓄えよ
- 貴重な教育実務経験を外注するな

- インストラクショナルアナリシスと合わせて教育規則策定細則を
- 自己啓発、OJTは教育規則からは排除する
- 研究(旧自己啓発)は全社員に推奨する活動とする
- OJTは課目設置が「計画」であり、実施は実務管理の配下へ

2011.3.19

教育改革の提言

39



精神保健教育を

- 自殺防止・ストレス削減のメンタルヘルス講座の廃止
- 精神症者雇用の精神保健講座を
- アスペルガー症は約250人に一人
- 健常者と区別がつかず、お互いに嫌な思い
- 嫌な上司には少なからず、このケースがある
- 管理系統が乱れる
- メンタルヘルス講座では効果がない
- 症状だと分かれば、適材適所で業務改善が可能
- 情報業、保険業、運輸業には特に役立つ
- 科学的な性格検査は役に立つ

2011.3.19

教育改革の提言

40



人事制度の非改革を

- 人事制度＝人事評価という誤解の絶滅を
 - 人事制度＝人事計画＋人材開発＋人事評価
 - 職種・等級の体系が枠組みである
- 経歴細則を作る
 - 「そろそろ昇級」を明文化
 - 人事評価細則よりも何十倍も大切
- 職種・等級データを人事データベースへ記録する
 - 所属部門のデータでは経歴情報としては不十分
- 人事統計報告書を社長へ報告する
 - 報告書取りまとめ過程で、人事課が問題解決を検討
- スキル標準の別建ては慎重に
 - 職種・等級として認定されないと長続きしない

2011.3.19

教育改革の提言

41



6. 病院教育の改革

2011.3.19

教育改革の提言

42



病院教育の問題点

- 卒後臨床教育を病院教育だと誤解している
 - 卒後臨床教育は学・病連携事業である
- 医師に冷たい。教育機会が皆無に等しい。
- 看護師は副技師長以上の課目の内容が薄い
- 技師への人事・教育は極寒。民間薬局会社に劣る
- 事務職員は外注化により、戦略策定成績が低下
- 職員自身の精神健康問題に関心(紺屋の白袴)
- チームワークが弱い
- 慇懃又は無礼な接遇教育
- 看護師の離職や将来不安
- 規則類の弱さを正さない病院経営学講師

2011.3.19

教育改革の提言

43



ISO9001品質管理体系の私の仕事

- ISO9001の観点で、人事・教育のルールとマニュアルの不備を直す
- 職員教育規則の原案を策定
- 「チーム作業」科目を和訳・実施 (TeamSTEPPS)
- 「戦略策定」科目を開発
- 「教育分析」科目を開発し、人事制度の部分を実施
人事制度をもとに職員教育規則を策定する技法
インストラクショナルデザインの最上流の部分

2011.3.19

教育改革の提言

44



経営基礎論を兼ねるチーム作業課題を

単元2 チーム構造 Team Structure

主人と客人とは対等
マルチチームシステム MTS
調整チームとは
事務の役割

単元3 指揮性 (Leadership)

二つの種類の指揮者
命令と従事
資源管理
委譲 (delegation)
専決 (arbitrary decision)
直前指示 (ブリーフィング)
集合 (ハドル)
直後報告 (デブリーフィング)

単元4 状況監視 (Situation Monitoring)

状況監視 (個人技能)
STEP (何を監視するか)
状況認識とは
共有脳内モデルとは (shared mental model)

単元5 相互支援 (Mutual Support)

相互支援
任務補助 (task assistance)
フィードバックのさまざまな種類
提言及び主張 advocacy and assertion
2回挑戦規則 (Two-Challenge Rule)
対立の解決: DESC「状態提結」台本

単元6 交信 (communication)

SBAR
呼出し call-out
再確認 check-back
申し継ぎ handoff
了解 acknowledgement

- 組織の対人関係がコンパクトに含まれている教育。
- 凡百な対人成績教育よりずっとよい。

2011.3.19

教育改革の提言

45



チーム作業課題は主張を奨励する

- 軍隊では上司に反論するのは部下の仕事・義務
- 勝率 (治癒率) を上げるためには何でもする
- 対立しても、あとは敬意を保つ。明日も戦いだから
- 是正や反論は、即時・即座が原則。心身技能。
- ストレスにチャレンジして、主張する。

受講感想「私の上司は私の意見を聴いた上で、責任者として最終決定 (否決) していたことが分かった。受講前は意見を聴いてくれないのだ、と誤解して、ああはなりたくないと思っていた。私も昇格したら今の上司のようになりたい。」

2011.3.19

教育改革の提言

46



病院職員教育規則に基づく教育改革

- 職種・等級体系と職級明細書で平等な課程の提供
- 職種間共通クラスの階層別課程も設ける
- 事務職員の外注化から内注化へ
 - 医療事務等の病院特有成績も院内教育で持たせる
 - 部門間の異動・昇格を従来の事務職員のように柔軟に
 - 業務を経歴にすることにより、戦略策定成績を持たせる
- 看護師・医師の管理職教育を、職級明細書の内容に
- 技師は経歴細則により、部下なしでも「そろそろ昇級」
- どの職種も戦略策定を教えて、経営に参画させる
- 教育業務が多いので、ID教育課目群を開設する
- 紺屋の白袴から、精神科医による精神健康課目へ

2011.3.19

教育改革の提言

47



7. 小・中・高・大の教育改革

2011.3.19

教育改革の提言

48



大学教育の問題

- もともとの職業学校なのに、キャリア科目が流行
- 専門学者が教養科目へ進出。教養学者は仕事が楽
- 教養学者は講座・後輩学者を持たず、経歴が不安定
- 教養学センターを作るが、学部も教養学者を抱える
- 社会科学・人文科学の一部に、大学院型後進性あり
- 全学教育目標と言うが、科目記述のお粗末さ
- 現状を見直さない改革。ついていけない一般教員
- 講義がなぜ悪い
- 改革するたびに教育能率が低下していく

2011.3.19

教育改革の提言

49



小・中・高教育の問題

- 批判するのがかわいそうなほどのエビデンス不足
- 職業イメージが誤解されて、適性のない人が就職
- 新施策も、イメージと違いを生じ、精神症を増やす
- 教師実践力が弱いのではないのに、実践強化施策
- 目標も成績もない、総合的学習の時間
- 根本問題の教育学者が、ゆとりと詰め込みを交代
- 教育学者の自分勝手に、つまらない免許更新教育
- 一貫教育の流行。各単位の改善余地に気づかない

2011.3.19

教育改革の提言

50



おわり

教育改革の提言

2011.3.19

教育改革の提言

51